

Title	地域金融機関における中小企業向け貸出の問題点と今後のあり方
Sub Title	
Author	青木, 武司(Aoki, Takeshi) 許斐, 義信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2016号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	許斐 研究会	学籍番号	80430036	氏名	青木 武司
(論文題名)					
地域金融機関における中小企業向け貸出の問題点と今後のあり方					
(内容の要旨)					
<p>中小企業金融の円滑化と地域経済の活性化を図るべく、金融庁は2002年から、主導的な役割を果たしていると考えられる地域金融機関に対して、様々な施策を講じている。</p> <p>そうした施策の一方で、中小企業向け貸出は減少傾向にあり、不良債権比率も地域金融機関を中心に高水準であるのはなぜなのか。本論文ではその原因となる事柄を文献、資料等により考察し、そうした考察を基に、中小企業向け貸出についての仮説を導出する。そしてその検証を通じて、中小企業向け貸出に関する地域金融機関の取組みのあり方を模索することが本論文の目的である。</p> <p>具体的には、資金の借り手である日本の中小企業の財務状況に関してマクロデータを通じて俯瞰し、中小企業向け貸出が困難に陥っている要因についてまとめる。次にこのような現状に対し、中小企業金融の円滑化を目的として取組みを行った金融庁の施策上の問題点に関してまとめ、そうした問題点から金融機関がどのような資金供給（融資）行動になると考えられるかを考察する。これらの章を通じて、金融庁による資金の貸し手側に対する施策、即ち金融機関の行動だけを変えるような施策が、中小企業向け貸出の振興に通じるものではないことを示し、需要者（中小企業）側の資金調達行動に関する分析の必要性を示す。そしてその資金調達行動に関して、消費者行動モデル（ハワード＝シェスモデル）を活用したフレームワークを構築し、仮説を導出する。導出した仮説に関しては、各企業へのアンケート調査を通じて検証を行い、その検証を通じて、中小企業向け貸出に関して、需要者側の現状を踏まえた地域金融機関の取組みのあり方を考察し、提示することになる。</p>					